

■ 令和4年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	800 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	2,573 点
計	3,373 点
整理・保存 閲覧	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等 利用者 延 2,211 人

II 展覧会事業

(1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (309日間)	5,319	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約 1,350 点を紹介。 (◎展示構成を次頁に掲載。)
ファミリー文学館 花・彩々 －文学の中に咲く－	4/16(土) ～ 6/ 5(日) (44日間)	2,422	花や樹は季節の移り変わりを感じさせるだけでなく、嬉しい時、悲しい時や思い出のシーンなどで傍らにたたずんでいる。文芸作品の中にもいろいろな花や樹が登場する。そんな花や樹の描写を、北海道ゆかりの作品の中から紹介。文学の中に咲く花の色や香りを感じていただいた。
特別展 地図と文学の素敵な関係	6/18(土) ～ 8/14(日) (50日間)	1,875	文学作品を読み進める上で、地図が大きな役割を果たしていることがある。旅気分を盛り上げ、タイムマシンの役割を担い、空想世界を呼び寄せ……ときには地図を見ながら手に汗をにぎることも。本展では、主に当館のコレクションから注目したい作品や資料をピックアップし、地図と文学の相乗した魅力を探った。
特別展 金子みすゞの世界	8/20(土) ～ 10/23(日) (50日間)	5,958	童謡詩人・金子みすゞ（1903～30年）は、20歳の頃から童謡作品を雑誌に投稿し、西條八十から「若き童謡詩人の中の巨星」と称賛された。26歳の若さでこの世を去り、長らく「幻の童謡詩人」と語り継がれてきた。1982（昭和57）年、童謡詩人の矢崎節夫氏が手書きの三冊の童謡集を発見、『金子みすゞ全集』を刊行すると、みすゞの名は一躍世に知られるようになった。多くの人が見過ごしてしまいがちなもの存在に目を向けたみすゞの童謡は、現在でも多くの人に親しまれている。本展では、みすゞの生涯や彼女の童謡の世界を紹介した。
特別展 歿後10年 吉本隆明 －廃墟からの出立	10/29(土) ～ 1/9 (月・祝) (59日間)	1,609	『言語にとって美とはなにか』『共同幻想論』など多くの著作で知られる吉本隆明（1924～2012年）。詩作のかたわら吉本は、人間や社会の意味を根底から問い直し、言語・芸術・宗教・性など幅広い分野にわたる評論活動をジャンル横断的に行った。その表現・思想の淵源に何が湛えられていたのか。本展では、敗戦直後の廃墟にあって、精神と生活の危機に直面しながら、ひとり詩を書き、世界把握の方法を模索した吉本の追究の姿を、自筆原稿・ノート・著作などを通して探った。
特別展 細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句	1/21(土) ～ 3/19(日) (50日間)	966	昭和初頭の新興俳句運動にめざめ、戦時中の俳句弾圧の荒波をくぐりぬけ、北海道の戦後昭和俳句を力強く牽引した細谷源二と齋藤玄。「働く者の俳句」を標榜し花鳥諷詠とは異なる現代俳句を推進した源二と、幽玄の世界に深く分け入り伝統詩型の中に新局面を切り開いた玄。作風は対照的ながら、新興俳句の精神を戦後の北海道に根付かせ、「北方詩としての俳句」とも呼ぶべき世界を創り出すという共通点を持つ俳人であった。いまこの二人にあらためて光を当て、激動の昭和俳句が現在と未来に問いかける課題を浮き彫りにした。

【常設展アーカイブ】

- ・第1期展示 [4月9日(土)～7月3日(日)]
生誕100年 三浦綾子の世界
写真家・後山一朗氏が撮影した三浦綾子の写真を中心に紹介
- ・第2期展示 [7月9日(土)～9月4日(日)]
地図の楽しみ
当館の古地図コレクションから北方地域の地図を中心に紹介
- ・第3期展示 [9月17日(土)～10月23日(日)]
文学者たちの愛した品々
当館所蔵品の中から、文学者たちの愛した品々を紹介
- ・第4期展示 [10月29日(土)～1月8日(日)]
ふみくらの中の朔太郎
全国の文学館で展開している「萩原朔太郎大全2022」の一環として当館所蔵の朔太郎関連の品々を紹介
- ・第5期展示 [1月14日(土)～3月19日(日)]
熊のいる風景
熊の登場する文学作品や絵本により、熊とのふれあい、共存の難しさから起こる悲劇などを紹介

(2) 常設展の展示構成

〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良ほか〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」原稿、北方謙三「林蔵の貌」原稿、高倉新一郎『覆刻札幌農学校』 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」原稿、石川啄木「雲は天才である」原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」原稿、森田たま「きもの博士」原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」原稿、久保栄「火山灰地」原稿、本庄陸男「逆流」原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」原稿、中村武羅夫色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」原稿、石塚喜久三『花の海』、坂本直行カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」原稿、風巻景次郎「札幌地理学」原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海文学」(原田康子「挽歌(第一回)」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」原稿、李恢成色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆)、高橋揆一郎「『伸子』覚え書き」原稿 ◆変転する現代 渡辺淳一「リラ冷えの街」原稿、北海道ゆかりの芥川賞・直木賞受賞作家と作品 ◆文学マップ「小説の中の北海道」

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

知里幸恵、金成マツ、金田一京助、知里真志保、バチェラー八重子、森竹竹市、萱野茂、遠星北斗、鳩沢佐美夫

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元「北の墓標」原稿、吉村昭「北天の星」原稿、李恢成『サハリンへの旅』、寒川光太郎「(オロッコ族)」原稿

〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」扁額、小熊秀雄「裸婦」原画 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」原稿、和田徹三「命」原稿、河邨文一郎「オホーツク」原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修色紙

〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井広治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北

海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか ◆俳句の現代 鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治より昭和（前期）まで 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西島〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和 20 年代より平成 7 年まで 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆現在の活動状況 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和 20 年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和 30 年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和 40 年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

Ⅲ 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は自主企画事業。

事業項目	事業名	実施時期（日数）	目標観覧（参加）者数（人）	観覧（参加）者実績数（人）	観覧（参加）率	備考
講演会・セミナー・講話等	絵本の読み聞かせ「絵本の中にも花が咲いている」	4月24日（日） 5月15日（日）	50	24	48.0%	「ファミリー文学館」展 関連事業
〃	ミニコンサート「花の歌－カンテレの調べに乗せて」 講師：あらひろこ（カンテレ奏者）	4月29日（金・祝）	50	25	50.0%	〃
〃	絵本作家によるトーク 講師：小寺卓矢（写真絵本作家）、升井純子（児童文学作家）	5月 3日（火・祝）	50	25	50.0%	〃
〃	朗読会「文字の中に咲く花」 朗読：河原多恵子（言葉のアトリエ Kukka主宰）、 安藤千鶴子（朗読表現講師）	5月 8日（日） 5月29日（日）	50	49	98.0%	〃
〃	講演会 1「伊藤整『幽鬼の街』と小樽の地図」 講師：亀井志乃（市立小樽文学館館長）	6月26日（日）	50	22	44.0%	「地図と文学の 素敵な関係」展 関連事業 他にオンライン 申込58名
〃	講演会 2「佐藤泰志の場所～函館から海炭市へ」 講師：有土健介（ライター）	7月10日（日）	50	22	44.0%	〃 他にオンライン 申込62名
〃	講演会 3「『夢の輪』の広がり－福永武彦の見た『寂代＝帯広』」 講師：田口耕平（財団評議員）	8月12日（金）	50	26	52.0%	〃
〃	映画会「探偵はBARにいる」	7月 9日（土）	40	23	57.5%	〃
〃	朗読会「文学の中の『地図』」 朗読：音夢の会	7月24日（日）	40	22	55.0%	〃
〃	一緒に作ろう工作地図 講師：松本 浦（挿画家）	7月26日（火）	10	9	90.0%	〃
〃	講演会「みんなちがって、みんないい。 ～みずゞさんのうれしいまなざし～」 講師：矢崎節夫（童謡詩人、金子みずゞ記念館長）	9月10日（土）	70	28	40.0%	「金子みずゞの 世界」展 関連事業
〃	学芸員による見どころ解説 講師：当館学芸員	9月14日（水）、 10月5日（水）、19日（水）	100	72	72.0%	〃
〃	書道パフォーマンス 出演：札幌南高校書道部	9月19日（月・祝）	70	60	85.7%	〃
〃	講演会「吉本隆明と現在」 講師：三浦雅士（評論家）	11月12日（土）	60	40	66.7%	「歿後10年吉本隆 明－廃墟からの 出立」展関連事業 他にオンライン 申込112名

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率	備考
講演会・セミナー・講話等	対談「吉本隆明の「視点」をめぐって」 講師：瀬尾育夫(詩人)、村瀬学(児童文学研究者)	11月23日(水・祝)	60	36	60.0%	他にオンライン申込68名
〃	講座「吉本隆明の戦後について」 講師：高橋秀明(詩人、財団理事)	11月27日(日)	60	35	58.3%	〃
〃	映像上映会「講演会「わが月島」」	12月10日(土)	60	47	78.3%	〃
〃	講演会「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」 講師：五十嵐秀彦(俳句作家)	1月22日(日)	60	35	58.3%	「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」展開連事業
〃	鼎談「細谷源二と齋藤玄が私たちに遺したもの」 講師：五十嵐秀彦、鈴木牛後、瀬戸優理子(俳句作家)	2月26日(日)	60	45	75.0%	他に動画視聴数168回
〃	講演会「細谷源二著『俳句事件』-『俳句弾圧不忘の碑』からフランス語訳の出版まで」 講師：マブソン青眼(俳人)	3月12日(日)	60	35	58.3%	他に動画視聴数264回
〃	ギャラリー・ツアー 講師：五十嵐秀彦	3月1日、2日、8日、9日、15日、16日	60	63	105.0%	〃
夏休み文学道場	「夏休み文学道場」(対面・オンライン開催)	7月27日(水)、8月10日(水)	30	6	20.0%	
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰(募集)	7月1日(金)~9月11日(日)	4,300	6,921	161.0%	
〃	小・中・高生短歌コンテスト作品展示	12月3日(土)~1月15日(日)		536		
ファミリー文学館	ワークショップ		100	中止		
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	15回開催 5/5/6/5/7/3/7/31/8/7/9/4/11/6/12/4/12/11/25/2/5/3/5	450	291	64.7%	5/5/7/31/12/4は各2回実施
映画鑑賞会	「風と樹と空と」	5月22日(日)	60	24	40.0%	
映画鑑賞会	「青春のお通り」	8月28日(日)	60	25	41.7%	
映画鑑賞会	「四つの恋の物語」	11月20日(日)	60	23	38.3%	
映画鑑賞会	「祈る人」	2月19日(日)	60	23	38.3%	
市町村連携事業「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	24市町村25会場	1,200	1,061	88.4%	
市町村連携事業「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	2市町村2会場	3,000	571	19.0%	
文字・活字文化の振興事業	講演会「『新しいアイヌ学』のすすめ~知里幸恵の夢を求めて」を書いて」 講師：小野有五(北海道大学名誉教授)	10月30日(日)	60	32	53.3%	
古典の日記念朗読会	古典の日にちなみ、古典文学作品を朗読「源氏物語」 朗読：宮下郁子	11月3日(木・祝)	60	29	48.3%	
月例朗読会	朗読：ドラマチックリーディンググループ蔵 ほか	10回開催 5/12/6/9/7/14/8/11/9/8/10/13/11/10/12/8/2/9/3/9	500	249	49.8%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2022」 展示室の夜間開館、ミニコンサート、古書バザール、手作りコーナー等を実施	7月22日(金)	200	189	94.5%	
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(309日間)	4,200	2,211	52.6%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(309日間)		258		
負担金事業計			15,500	13,192	85.1%	
※ 文学館カレッジ	・北海道文学アラカルト、吉本隆明の戦後、永井荷風の日記を読む、生涯読書会の4講座	6~3月	500	155	31.0%	
※ ロビーコンサート	チェロコンサート 演奏：西村新一 クラシックギターコンサート 演奏：軽部涼子、神野政彦、藤森英哉、佐々木みこと	11月5日(土)、6日(日)	100	37	37.0%	
※ 中島公園 ぶんがく縁日	絵本交換会、秋の朗読会、文学トーク	10月9日(日)、10日(月・祝)	100	135	135.0%	
※ ぶらり文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	11月6日(日)	30	6	20.0%	
※ 文学館まつり	トークⅠ・Ⅱ、一日限りの資料公開、手作りコーナー、古書バザール	9月23日(金・祝)	150	85	56.7%	
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	4/2~6/19、7/9~9/19、10/1~11/20、1/21~3/12 全4回		5,066		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(186日間)	100	28	28.0%	
※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	600	0	0.0%	
財団企画事業計			1,580	5,512	348.9%	
	合計		17,080	18,704	109.5%	

IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① ファミリー文学館「花・彩々ー文学の中に咲くー」展関連資料調査
- ② 特別展「地図と文学の素敵な関係」展関連資料調査
- ③ 特別展「金子みすゞの世界」展関連資料調査
- ④ 特別展「歿後10年吉本隆明ー廃墟からの出立」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度のファミリー文学館「ネコ！ねこ！猫！！Ⅱ」展関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「小津安二郎～世界が愛した映像詩人～」展関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「『スーホの白い馬』の画家 赤羽末吉」展関連資料調査
- ⑩ 次年度の特別展「左川ちか 黒衣の明星」展関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「100年の時を超えるー〈明治・大正期刊行本〉探訪ー」展関連資料調査

V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① 中川町教育委員会
斎藤茂吉記念第29回中川町短歌フェスティバル
(令和4年6月1日～10月31日 中川町)

VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催をPRするため、新聞紙上で有料広告のほかTVスポットCMを行った。
- ② 「北海道文学館報」第129号(7月15日付)、第130号(9月29日付)、第131号(12月20日付)、第132号(3月10日付)を発行した。

VII 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「地図と文学の素敵な関係」展図録の刊行
- ② 特別展「歿後10年吉本隆明ー廃墟からの出立」展図録の刊行
- ③ 特別展「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」展図録の刊行

VIII その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入
令和4年8月30日～9月6日(6日間)、実習生4名
令和5年1月24日～1月31日(6日間)、実習生4名